

2024 年度 社会福祉法人椎の木福祉会 事業報告

1. 2024 年度主要事業の進捗状況

①法人本部機能の強化

施設長人事など組織体制の見直しを実施し、さらなる本部機能の強化を進めた。

②働き方改革と魅力ある職場作り

処遇改善加算の一本化により、改善金の支給内容を見直した。

相談窓口を増設するなど、働きやすい職場環境の整備を進めた。

③人材確保対策

特定技能外国人の受入れを進めた。外国人スタッフ、日本人スタッフの双方にとって働きやすい環境整備に努めた。

新卒採用に向けて就職説明会や学校主催のガイダンスへの参加を進めた。

ハローワーク半田「人材マッチング企画部門」との連携を深めた。

④事業運営

半田市との協議を進め、2025 年度より地域包括支援センターを受託する準備を進めた。

介護報酬改定に対応した体制を整備し新規加算の取得に努めた。

半田市にある NPO 法人からの事業継承に伴い、2024 年 12 月 1 日より就労支援事業 B 型、共同生活援助を新規開設した。

⑤地域連携

中野会との法人間連携や地域貢献を進めた。

2. 事業所別報告（実績・課題）

1) 特別養護老人ホーム瑞光の里

【稼働状況】

本館平均人数 特養 84.8 人 ショート 25.8 人であった。（目標：特養 89 人 ショート 20 人）

別館平均人数 特養 37.8 人であった。（目標：特養 39.5 人）

平均介護度 本館 4.1 別館 4.0 であった。（目標：本館 4.1 別館 4.0）

【利用者の生活の質向上】

職員一人ひとりがコミュニケーションを大切にし、入居者・ご家族との信頼関係を深めた。

環境整備や感染予防対策等に尽力し、安全・安心な暮らしの提供に努めた。

【職員の質向上】

介護福祉士比率向上に努めた。（常勤換算：44.6 人 目標：45 人）

認知症介護実践リーダーやユニットリーダー資格の取得を進めた。

研修や会議等、実習指導者研修や介護職員等によるたん吸引研修の受講を進めた。

委員会やプリセプター制度等を通じて、新人教育や職員教育の充実を図った。

【地域連携の強化】

職員間の情報共有を心がけ、緊急ケースを迅速かつ柔軟に受け入れた。（措置入所を含む）

プラチナカフェや相談窓口、介護予防・生活支援協議会等へ参加し、地域ニーズを共有し、交流を深めた。

2) 特別養護老人ホーム第二瑞光の里

【稼働状況】

平均人数 特養 83.7 人 ショート 13.5 人であった。（目標：特養 87.2 人 ショート 10.3 人）

平均介護度 4.0 であった。（目標：4.0）

【利用者の生活の質向上】

「季節を感じていただく」をテーマにユニット毎に工夫した行事を実施できた。
利用者の介護度やニーズ、自分らしさに合わせたサービス提供に努めた。
看取り期には全職種が共同し家族も含めて悔いの残らないサービスを提供した。
コープあいちを取り入れ利用者が希望する買い物の実現に努めた。

【職員の質向上】

介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算：48.3 人 目標：50 人)
丁寧な言葉使いを定着させるべく生産性向上委員会主導で取り組んだ。
役職者が先頭に立ち福祉職としての技術向上に取り組んだ。
LIFE データのフィードバックを委員会活動に取り込み技術向上の機会とした。
ふくし相談窓口の役割について施設内周知を実施した。

【地域連携の強化】

半田地区介護予防生活支援協議会の役員として地域連携に取り組んだ。
半田地区介護予防生活支援協議会を施設内で開催する事で施設を知ってもらう機会を設けた。
他事業所からの利用相談に対して職員全員で丁寧な対応に努めた。

3) 特別養護老人ホーム瑞光の里 緑ヶ丘

【稼働状況】

平均人数 特養 95.3 人 ショート 21.4 人であった。(目標：特養 94 人 ショート 22 人)
平均介護度 4.1 であった。(目標：4.1)

【利用者の生活の質向上】

利用者の生活の継続を意識したユニットケアの提供を行った。
様々な行事を企画実践し、「緑ヶ丘で良かった」と思っていただけの生活を提供した。

【職員の質向上】

介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算：46.3 人 目標：49 人)
園芸部を立ち上げ、チームケアで「美しい施設」を実践し続けた。
事業所を取り巻く環境や変化を理解し、柔軟に対応できる体制を整えた。
役職者教育、職員教育を実践し、サービスの質の向上に努めた。
介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に進めた。
施設内研修を通じ、職員の顧客意識を向上させ、接遇力を高めた。

【地域連携の強化】

困難ケースと向き合い、地域から頼られる施設を目指した。
研究協力などを通じて日本福祉大学半田キャンパスとの交流を進め、連携を深めた。
介護福祉士・社会福祉士などの実習生の受け入れ体制を維持し、福祉人材の育成に努めた。
ユニットリーダー研修実地施設として福祉人材の育成に努めた。

4) 半田養護老人ホームL i n k

【稼働状況】

2024 年度は満床継続した。他養護（4 施設）や 6 市町村、名古屋市 13 区と連携を図り、空床発生時や空床発生が予測された際、計画的に入居させることができた。

【利用者の生活の質向上】

懇談会

(1)実施回数：年間 2 回（6 月、3 月）

(2)目的：入居者との直接の意見交換を通じ、施設運営の改善点を確認

(3)結果：「ほぼ満足」との回答多数。懇談会を通じた具体的な改善案も共有された
QOLを意識した入居生活

(1)取り組み内容

個々の入居者に合わせた生活環境の提供

多職種による連携を強化し、入居者ニーズの共有を進める

(2)成果

サービスの質が向上し、満足度も向上

入居者の気持ちに寄り添うアプローチが評価された

【職員の質向上】

入居者の満足度向上を目的とした取り組みがほぼ達成された。具体的には以下の進捗があった。

(1)利用者ゴールの共有を通じた多職種連携の強化

(2)フィードバックを活用したサービス改善の実施

(3)接遇の定期的な振り返りによる改善意識の向上

一方で、委員会参加率の向上や無意識に行われるスピーチロックへの気づきを促進し、入居者の気持ちに寄り添うアプローチをさらに進展させる必要がある。

【地域連携の強化】

地域連携の継続的な成果

(今年度の継続活動)

区民展や防災教室等の催事参加を継続。

協和区長より定期的に情報提供を受け、地域活動への参加体制を強化。

地域連携の意義

地域住民との関係構築に寄与。

防災意識の啓発や住民の安全確保に貢献。

継続的な連携は事業の安定性を示し、今後も同様の活動を通じて地域との結びつきを強めていく。

5) デイサービスセンター第二瑞光の里

【稼働状況】

平均人数 28.2人であった。(目標 29.0人)

平均介護度 1.8であった。(目標：2.5)

【利用者の生活の質向上】

在宅生活の継続を目標に個別機能訓練に取り組んだ。

家族を含めて情報交換を密に行い利用者ニーズに沿ったサービス提供に努めた。

季節をテーマにしたレクリエーションを多数提供した。

利用者の健康管理や感染症対策を徹底した。

【職員の質向上】

介護福祉士比率向上に努めた。(常勤換算：10.5人 目標：13人)

サービスの質向上と効率化を目指し業務改善に取り組んだ。

毎朝の復唱で安全運転への意識付けを実施した。

顧客意識を持ち常に言葉使いに注意を向けた取り組みを実施した。

【地域連携の強化】

必要とする方へサービスを届けるため地域に向けて情報発信を実施した。

半田市社協と協力し、着物の着付け教室を開催した。

初任者研修の現地研修を受入れ、福祉人材の育成に努めた。

夏休みのボランティアを希望する学生を受け入れ、福祉を知ってもらう機会を設けた。

6) 瑞光の里指定居宅介護支援事業所

【稼働状況】

介護給付 147 人であった。(目標: 163 人)

予防給付 19.1 人であった。(目標: 25 人)

【利用者の生活の質向上】

多様化するニーズに応えるため、利用者本位のケアプランの充実と、利用者・ご家族との信頼関係の構築に努めた。

【職員の質向上】

委員会活動や外部研修の活動を通じて職員間の共通理解を深め、安定したマネジメント体制を構築した。また、他法人との事例検討を通じてアセスメント、マネジメント技法の向上を図った。

特定事業所加算Ⅱの算定を継続した。

【地域連携の強化】

地域での困難事例の受け入れを継続するとともに、地域住民の方との交流や関係機関との連携強化を通して、地域包括ケアに取り組んだ。

7) 障がい支援事業障がい支援課

事業運営の安定(利用者確保)を最優先課題とし、事業全体として黒字化の見通しができた。

【相談支援ずいこう】

平均稼働: 月間請求数 75.2 件であった。(目標 75 件)

新たに社会福祉協議会への出向契約を締結し、相談支援専門員を 1 名増員することができた。

【ヘルパーステーションずいこう】

平均稼働: 月間支援時間 570.8 時間であった。(目標 620 時間)

職員欠員等により目標が達成できなかったが、ICT 導入による業務効率化を図った。

【グループホームずいこう板山】

平均稼働: 3.7 人であった。(目標 4 人)

事業継承により、開設を目指していた共同生活援助を予定より早めることができた。

【トレーニングスペースずいこう】

平均稼働: 14.9 人であった。(目標 15 人)

事業継承により、既存の就労継続支援 B 型とは異なるターゲット層を取り込む事業を開設した。

【就労支援すまいるずいこう】

平均稼働: 14.9 人であった。(目標 16 人)

一般就労への移行を多数進めることができた。そのため、稼働実績は目標値には届いていない。

【放課後等デイサービスずいこう】

平均稼働: 5.7 人であった。(目標 5.5 人)

重症心身障害児および医ケア児の割合が増えたため、看護体制の強化を図った。

【生活介護ずいこう】

平均稼働: 7.7 人であった。(目標 8 人)

重症心身障害者の割合が増えたため、看護体制の強化および配置職員を増員して対応した。

【障がい支援事業共通】

重度者用グループホーム開設の為、多機能事業所の移転について検討を進めた。

生活訓練、就労支援 A 型、就労移行支援、児童発達支援等の新規事業について検討を進めた。

M&A 等の活用による障がい支援事業の拡大、提供地域の拡大について検討を進めた。

安定的な職員獲得を目的に、実習生受入体制を継続していくための体制強化を行った。

3. 研修、委員会活動

1) 研修活動

①施設内研修

研修名	研修内容	研修実施月
事故防止対策	・ 事故防止の考え方 ・ KYT	6 月・12 月
地震防災 事業継続計画	・ 地震防災教育（事業継続計画研修） ・ 非常食訓練 ・ 災害用物品使用訓練 ・ 安否確認訓練	5 月・7 月・11 月 3 月 9 月 4 月・7 月・10 月・1 月
火災避難訓練	・ 初期消火と避難誘導訓練（日中夜間想定）	6 月・11 月
救命訓練	・ 救急要請と心肺蘇生法訓練	10 月
感染症予防対策	・ 感染症 BCP、汚物処理、ガウンテクニック訓練 ・ 感染症及び食中毒予防研修	8 月・1 月 5 月・11 月
褥瘡対策	・ 褥瘡予防の体位変換、除圧訓練	11 月
身体拘束廃止	・ 感染症発生時の予防における身体拘束手順 ・ 身体拘束防止教育	9 月・3 月
虐待防止	・ 高齢者虐待防止、不適切ケア廃止 ・ 認知症の理解	6 月・12 月
看取りケア	・ 看取りケアの充実 ・ 家族支援	9 月・3 月
介護技術	・ 福祉用具の使用手法	2 月
生産性向上	・ 接遇マナー、言葉遣い	10 月
新入職員研修	・ 法人理念、就業規則、コンプライアンス等の理解	入職時
プリセプターシップ	・ 業務理解と技術習得	入職から半年
育成プロジェクト	・ リーダーシップ力向上	随時
ケアの質の向上	・ 個別ケアの理解、ケアの質の向上	毎月

②施設外研修

- ・ 外部研修を受け、専門知識や技術の向上を図った。
- ・ 個人で参加した研修の内容等は施設内研修会で情報を共有した。
- ・ 委員は専門分野の Web 研修等に積極的に参加し、知識を深めた。
- ・ 知識や技術向上のため外部から専門講師を招き勉強会を行った。（排泄ケア）
- ・ 喀痰吸引等研修、ユニットリーダー研修、認知症実践リーダー研修を受講した。

2) 委員会活動（毎月 1 回、状況により随時開催）

①リスクマネジメント委員会【事故防止対策委員会】

- ・ 事故、アクシデント、インシデントデータの集計を行い、介護現場にフィードバックした。
- ・ 事故発生時の緊急会議の開催および事故分析を現場職員と共に行い、再発防止に取り組んだ。
- ・ 事故防止に対する啓発活動および知識向上のための訓練を行った。
- ・ インシデント強化のためのシステム作りを行った。
- ・ 喀痰吸引等の事故報告、リスク予防の取り組みを行った。（喀痰吸引等特定行為の安全委員会）
- ・ 施設内外の行方不明防止対策の検討を行った。

②レスキュー委員会

- ・定期的に訓練を計画、実施し、振り返り評価を行った。(消防、救急救命、地震防災等)
- ・各種マニュアルの見直しを行い、職員へ周知した。
- ・職員個々の防災意識を強化できるよう働きかけた。
- ・非常時に使用する物品管理を継続して行った。
- ・BCP（事業継続計画）に関する様々な知識を深めた。

③メディカル委員会【感染対策、褥瘡予防対策、身体拘束検討委員会】

- ・各種感染症マニュアルの見直しを行い、周知した。
- ・感染症に関する物品の管理を行った。
- ・感染症流行時期に合わせた勉強会開催、シミュレーションを行い、マニュアルを周知した。
- ・褥瘡の対応、予防のために使用する介護用品の管理を行った。
- ・褥瘡対策検討会を実施し、早期治癒、再発防止に努めた。
- ・感染症発生時の予防における身体拘束手順を周知した。
- ・委員会内で身体拘束の件数・内容を共有した。
- ・身体拘束廃止に向けて取り組み、感染症発生時を除いては身体拘束ゼロを維持した。

④認知症ケア委員会【虐待防止委員会】

- ・認知症についての理解を深め、認知症ケアに関する技能向上に努めた。
- ・高齢者、障害者理解を深め、虐待防止の啓発を行った。
- ・虐待の手前にあたる「不適切ケア」改善に向けての取り組みを行った。

⑤看取りケア委員会

- ・終末期を迎える利用者・家族に対し、より良いケアの提供と精神的な関わりが持てるよう努めた。
- ・家族の支援方法について検討した。
- ・死生観教育を通して看取りケアの質の向上を図った。
- ・職員の精神的安定が図れるよう体制づくりに努めた。

⑥介護技術向上委員会

- ・個別援助技術の向上につながる取り組みを行った。
- ・福祉用具を取り入れ、移乗や安楽な体位変換に取り組んだ。
- ・介護職員の腰痛予防にも配慮した技術を周知した。
- ・歯科と連携し口腔ケア技術の向上、誤嚥性肺炎予防に努めた。
- ・排泄ケアの見直しを行った。

⑦生産性向上委員会

- ・2Sを主とした5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を行い、生活環境改善に努めた。
- ・接遇マナーの啓発活動を行った。
- ・日頃の言葉遣いを振り返り、コミュニケーション技術の向上に努めた。

4. 会議開催等

会議等	開催年月日	概要
監事監査	2024年5月20日	2023年度年事業報告及び決算について
理事会 (4回開催) ※書面による決議	2024年5月29日	2023年度年事業報告及び決算について 給与規程の一部改定について 2024年度定時評議員会の開催について 評議員の人選について
	2024年9月30日※	2024年度第1次補正予算案について

		法人本部役職職員及び施設長の選任について 経理規程の一部改定について
	2024 年 12 月 11 日	第 2 回評議員会の開催について 2024 年度第 2 次補正予算案について
	2025 年 3 月 26 日	2024 年度第 3 次補正予算案について 2025 年度事業計画案について 2025 年度資金収支予算案について 経理規程の一部改定について 育児・介護休業規程の一部改定について 職員旅費規程の一部改定について
評議員会 (2 回開催) ※書面による決議	2024 年 6 月 19 日	2023 年度年決算について
	2024 年 12 月 11 日※	定款の変更について
評議員選任・解任委員会	2024 年 6 月 1 日	評議員の選任について
その他定例会議	月 1 回	経営会議
		法人本部会議
		施設会議
		全体会議
		各部署会議
		衛生委員会
		その他

監査	瑞光の里 2024 年 9 月 4 日	社会福祉法人等の指導監査（実地）
	短期入所（第二） 生活介護・放デイ 2024 年 9 月 6 日	障害福祉サービス事業者等の運営指導（実地）
	瑞光の里 緑ヶ丘 2024 年 11 月 19 日	介護保険運営指導（実地）

以上